

労務費の基準など情報共有 日本型枠九州が秋季研修会



いて情報を共有した。会には九州管内から71人が参加した。池之上支部長(福岡)が欠席のため、代理で堀之内広高副支部長(鹿児島)が写真が登壇「キャリアアップシステムは、技能レベルに合った手当、賃金制度等が普及拡大していくことでメリットが実感できると思う。本部から発表があったように、8月の一番暑い時期に酷暑休暇が取れるようにしたい。仕事のやりやすい春や秋に集中してやるなど、熱中症で亡くなる人がないようにしたい。給料がいい、休暇がある、希望がある、との新3Kを目指し取り組んでいる」と呼び掛けた。各分会報告では、①今

ZGPシステム講習会を開催

西日本建設業協同組合(松本一彦理事長)は10月5日、「ZGPシステム新規・更新講習会」および「技術講習会」を福岡市東区の福岡県職業能力開発協会で実施した。

受講者は、西日本建設業協同組合(松本一彦理事長)は10月5日、「ZGPシステム新規・更新講習会」および「技術講習会」を福岡市東区の福岡県職業能力開発協会で実施した。

受講者は、西日本建設業協同組合(松本一彦理事長)は10月5日、「ZGPシステム新規・更新講習会」および「技術講習会」を福岡市東区の福岡県職業能力開発協会で実施した。



受講者は、教室でシステムの概要や作業標準について説明を受けた後、実習場での施工実習、供試体作成に取り組んだ。また、指導員のアドバイスを受けながら、自動加圧機装置の設定や火災調整した後、接合面とところにゾーンバーナーを近づけ、圧接面と両端面幅焼きを同時に加熱、山吹色に熟した膨らみの状況を確認していた。写真

システムは、ガス圧接が人によってバラツキがあるため、それを解消する工法として、安定した品質を確保できるよう全圧連が開発した。福岡の一部の設計事務所では、図面の特記仕様にZGPシステムを指定しているところもあり、バラツキをなくした製品を提供したい」とあいさつ。

Ⅱ。同システムの機器は、直角切断機、スレート圧接器、自動加圧機の3セットで構成されている。新規は5本、更新は3本のD38の供試体作成が求められ、可否判定は、曲げ角度45度の折損がないなどの曲げ試験、外観検査試験が行われた。それらのデータは全圧連に送られ、後日、可否を判定して資格証と修了証が発行される。最後に技術委員の3人

が講評を述べた後、松本理事長は「加熱する時のバーナーの入り方が自分では真つすぐに入れていたつもりでも、前後だったり斜めになったりして、それが普段ついでの実施となった。本年3月末での全国の登録防水基幹技能者は2298人となり、29業種の中でも一定のウェイトを占めている。また、建設キャリアアップシステムの最高レベル4のゴールドカードを取得する要件の一つにもなっている。最後に試験があるので全員合格目指して頑張ってください」と激励した。

講義では、登録防水基幹技能者の在り方、防水工事における安全管理・原価管理、建築一般、コンクリートの知識、防水工事原論、メンブレン防水工事の技術上の管理、シーリング防水工事の技術上の管理、実務に役立つ話し方、OJT教育など、2日間で14時間にわたり学習。最後に四者択一式と記述式の25問の試験が行われる。合格発表は12月上旬の予定。

担い手、働き方など情報共有 全室協九州が大分サミット

(一社) 全国建設室内工事業協会九州支部(略称「全室協九州」)は10月9日、「全室協九州支部移

動理事会(大分サミット)を大分市のホテル日航大分オアシスタワーで開催した。

各支部の技能検定などの活動状況について意見交換を行い、情報を共有した。会には本部より横山忠則本部最高顧問、元本部専務理事の石田潤一氏が駆け付ける

とともに、九州・沖縄管内から会員、メーカー、商社の52人が参加した。池之上支部長(福岡)が欠席のため、代理で堀之内広高副支部長(鹿児島)が写真が登壇「キャリアアップシステムは、技能レベルに合った手当、賃金制度等が普及拡大していくことでメリットが実感できると思う。本部から発表があったように、8月の一番暑い時期に酷暑休暇が取れるようにしたい。仕事のやりやすい春や秋に集中してやるなど、熱中症で亡くなる人がないようにしたい。給料がいい、休暇がある、希望がある、との新3Kを目指し取り組んでいる」と呼び掛けた。各分会報告では、①今

つを大分支部の村岡二郎支部長(ニチヒロ、大分)が行った後、平木支部会長(アーキプロ、福岡)が写真が登壇「キャリアアップシステムは、技能レベルに合った手当、賃金制度等が普及拡大していくことでメリットが実感できると思う。本部から発表があったように、8月の一番暑い時期に酷暑休暇が取れるようにしたい。仕事のやりやすい春や秋に集中してやるなど、熱中症で亡くなる人がないようにしたい。給料がいい、休暇がある、希望がある、との新3Kを目指し取り組んでいる」と呼び掛けた。各分会報告では、①今

料費と労務費と経費ということで、簡単に労務費はこれですと出せないのが現状であった。検討委員会の清田氏に市況などを調査いただき、取りまとめることができたので各支部に持ち帰り理解を求めてほしい」と協力を求めた。

(一社) 日本建設躯体工事業団体連合会(大木勇雄会長)は11月29日、「日本躯体コンクリート打込み・締固め工団検定を福岡市東区の福岡県職業能力開発協会で実施した。九州地区および中国地区より、1級実技・学科22人、2級実技3人の計25人が試験に臨んだ。

この社内検定制度は、コンクリート工がコンクリート構造物の品質を左右する重要な職種にもかかわらず、軽作業員として扱われてきたため、技能向上と経済的地位の向

上を目的に創設された。厚生労働大臣が認定するもので、受験資格は1級が経験年数8年以上、2級は3年以上で、いずれも玉掛け技能講習を修了した者となる。

学科試験の1級は4択問題・全50問100点、2級は2択問題・全30問50点、実技試験40点、口述試験10点の100点となっている。(合格はいづれも60点以上となる)実技試験Ⅱ写真Ⅱでは、コンクリートに見立てたケイ砂と骨材の混合物を使い、内部振動機で

3分間打ち込み、それによつて下の隙間から出てくる混合物の排出量で評価。1級と2級の実技試験の違いは下の穴の大きさで、排出量がいずれも1kg以上で合格となる。下の箱には鉄筋が組まれており、内部振動機で充填させることで下の穴から混合物が排出される仕組みとなっている。受験者の中には3kgを排出す

る人もいた。口述試験では、内部振動機の操作について、音の変化や手に伝わる振動の変化を口頭で答えさせた。本部の大木会長は「国交省にはCCUSへの追加要請のほか、特殊作業員としての単価策定をお願いしている。ゼネコンによつては打設工の重要性を評価し、賃金向上等を図っている。今後はコンクリート構造物の品質を左右する職種であることを認知してもらい、資格の必要性を広げていきたい」と強調した。結果発表は、厳正な審査の後、来年2月25日に日本躯体のホームページで公表する。

行事日程

▽2月9日(月)15時半、令和7年度 福岡県高土工業連合会 第2回理事會、TKP博多駅筑紫口ビジネスセンターにて。

▽2月10日(火)15時、令和7年度(一社)日本型枠工事業協会九州支部 第3回役員會、八

仙閣にて。

同協会では、防水工事における基幹技能者の育成を図るため、平成20年8月に登録講習の実施団体として国土交通大臣の登録を受けた。今年度は10月上旬に終了した札幌



(一社) 全国建設室内工事業協会九州支部(略称「全室協九州」)は10月9日、「全室協九州支部移動理事会(大分サミット)を大分市のホテル日航大分オアシスタワーで開催した。

各支部の技能検定などの活動状況について意見交換を行い、情報を共有した。会には本部より横山忠則本部最高顧問、元本部専務理事の石田潤一氏が駆け付けるとともに、九州・沖縄管内から会員、メーカー、商社の52人が参加した。池之上支部長(福岡)が欠席のため、代理で堀之内広高副支部長(鹿児島)が写真が登壇「キャリアアップシステムは、技能レベルに合った手当、賃金制度等が普及拡大していくことでメリットが実感できると思う。本部から発表があったように、8月の一番暑い時期に酷暑休暇が取れるようにしたい。仕事のやりやすい春や秋に集中してやるなど、熱中症で亡くなる人がないようにしたい。給料がいい、休暇がある、希望がある、との新3Kを目指し取り組んでいる」と呼び掛けた。各分会報告では、①今

つを大分支部の村岡二郎支部長(ニチヒロ、大分)が行った後、平木支部会長(アーキプロ、福岡)が写真が登壇「キャリアアップシステムは、技能レベルに合った手当、賃金制度等が普及拡大していくことでメリットが実感できると思う。本部から発表があったように、8月の一番暑い時期に酷暑休暇が取れるようにしたい。仕事のやりやすい春や秋に集中してやるなど、熱中症で亡くなる人がないようにしたい。給料がいい、休暇がある、希望がある、との新3Kを目指し取り組んでいる」と呼び掛けた。各分会報告では、①今

料費と労務費と経費ということで、簡単に労務費はこれですと出せないのが現状であった。検討委員会の清田氏に市況などを調査いただき、取りまとめることができたので各支部に持ち帰り理解を求めてほしい」と協力を求めた。

(一社) 日本建設躯体工事業団体連合会(大木勇雄会長)は11月29日、「日本躯体コンクリート打込み・締固め工団検定を福岡市東区の福岡県職業能力開発協会で実施した。九州地区および中国地区より、1級実技・学科22人、2級実技3人の計25人が試験に臨んだ。

この社内検定制度は、コンクリート工がコンクリート構造物の品質を左右する重要な職種にもかかわらず、軽作業員として扱われてきたため、技能向上と経済的地位の向

上を目的に創設された。厚生労働大臣が認定するもので、受験資格は1級が経験年数8年以上、2級は3年以上で、いずれも玉掛け技能講習を修了した者となる。

学科試験の1級は4択問題・全50問100点、2級は2択問題・全30問50点、実技試験40点、口述試験10点の100点となっている。(合格はいづれも60点以上となる)実技試験Ⅱ写真Ⅱでは、コンクリートに見立てたケイ砂と骨材の混合物を使い、内部振動機で

3分間打ち込み、それによつて下の隙間から出てくる混合物の排出量で評価。1級と2級の実技試験の違いは下の穴の大きさで、排出量がいずれも1kg以上で合格となる。下の箱には鉄筋が組まれており、内部振動機で充填させることで下の穴から混合物が排出される仕組みとなっている。受験者の中には3kgを排出する人もいた。口述試験では、内部振動機の操作について、音の変化や手に伝わる振動の変化を口頭で答えさせた。本部の大木会長は「国交省にはCCUSへの追加要請のほか、特殊作業員としての単価策定をお願いしている。ゼネコンによつては打設工の重要性を評価し、賃金向上等を図っている。今後はコンクリート構造物の品質を左右する職種であることを認知してもらい、資格の必要性を広げていきたい」と強調した。結果発表は、厳正な審査の後、来年2月25日に日本躯体のホームページで公表する。